

一般質問

11月定例会では、24人の議員が一般質問を行いました。本紙では、各議員の質問の中から、質問と答弁の要旨を掲載します。

コロナ禍での社会的弱者支援について



島谷 龍司 議員
選挙区 鳥取市
会派 自由民主党

問 新型コロナにより大きな影響を受けている社会的弱者へのより一層の支援取組が必要では。

答 鳥取県として福祉のニューノーマルに挑戦しなければならないと思う。デジタル化の進展に伴う介護予防や高齢者の社会参加プログラムの研究、認知症についての基本条例の検討、県独自の障害者就労事業版の持続化給付金の実施、さらに低所得者への資金制度支援に加え所得格差解消に向けた対策の総合的なアプローチをしなければならないと考えている。

脱炭素社会に向けたエネルギー地産地消推進



福浜 隆宏 議員
選挙区 鳥取市
会派 無所属

問 再生可能エネルギー地産地消を進めるため、大規模な県外資本ではなく、地元が51%資本を取り利益は地元循環、電力の売り先や後処理の責任も地元が主導する形が理想。地元資本の新電力にとっても需給バランスを壊さない程度の開発を中心に進めた方が賢明ではないか？

答 地域新電力に供給を優先することはやっていく。蓄電して効率良く使う地域のシステムづくりの応援など探っていく。需給バランスは国全体の課題で、県も地域の送電網等を考えたい。

①②県立美術館 ③④不妊治療体制整備



語堂 正範 議員
選挙区 東伯郡
会派 自由民主党

問 ①県立美術館開館に遅れないか。機運醸成のためのイベントを行っては②国道179号はわいバイパスの早期整備・早期供用を③県立病院の不妊治療体制が整っているか④体制整備を。

答 ①(教育長)当初の予定どおり進んでいる。イベントなど様々なところと連携し取り組んでいく②北条道路と連動して整備を図る③(病院事業管理者)厚生病院は人工授精のみ。機器や人員体制の充実を図る④治療できるところを増やさなければならない。しっかりと展開を図る。

部活動の車による送迎 風力発電と住民意思



尾崎 薫 議員
選挙区 鳥取市
会派 会派民主

問 教員等による練習試合への生徒送迎禁止は現実と乖離。これを放置してきた教育長の所見を問う。規則変更が送迎増等教員負担にならないようにすべき。

答 (教育長)反省すべき点は大いにある。教員の負担に関し、バランスのとれた部活を進める。

問 練習試合等でもバス利用の経費助成の検討を。

答 当初予算で整理していく。

問 風力発電計画で説明を求めたが、住民は置いてけぼりだ。

答 業者の手続きは入口にも来ていない。厳正に審査する。

農業高校教諭の農業大学校への派遣について



澤 紀男 議員
選挙区 米子市
会派 公明党

問 農業大学校へは平成29・30年の2年間、農業高校教諭が派遣され、現在は見合わせている。派遣は農業高校教育において意義があると考え。県立農大への教諭派遣による教育効果、波及効果、また今後の継続派遣の必要性について教育長に伺う。

答 (教育長)派遣の意義は大いに認識している。花き、野菜などの専門的な知識や関係機関・農家とのネットワークが広がり高校での指導に生かしている。現在、やむを得ず中断しており、何とか派遣を継続していきたい。

県民みんなで自転車の活用推進を



松田 正 議員
選挙区 米子市
会派 自由民主党

問 ①ナショナルサイクルルート指定に向け、新年度どう臨むのか②県職員のヘルメット着用率が1割弱だが③タンDEM自転車公道走行解禁の要望書が提出された。早急に解禁すべき。

答 ①官民が連携した「鳥取県サイクルツーリズム推進機構」を設置し、次回指定に向けて備えたい②公務員には遵法義務がある。自転車通勤のルール作成等で意識改革したい③(警察本部長)県道交法細則一部改正の準備を進めている。期待に沿えるような時期に解禁したい。

一般質問

会派
正式名称

【自由民主党】鳥取県議会自由民主党
【会派民主】会派民主
【公明党】公明党鳥取県議会議員団

①コロナ感染防止対策 ②農山村の小水力発電



興治 英夫 議員

選挙区 倉吉市
会派 会派民主

問 ①医療崩壊を防ぐため、重症化対策が必要だ。低温保管が必要なワクチン接種の準備を②土地改良区や農村集落等での小水力発電の後押し支援を。

答 ①重症化させないよう早期検査・入院を続けていく。中部の重症者病床が少ないので、全県で融通し、病床を増やすことも模索する。ワクチンは早く情報収集し、円滑な接種ができる体制を作る②地元主導のものなら、中電との系統連携に県も協力し、助成制度の補助率を高めるなど、見直し改善を考える。

ジオパークの支援体制 県立高校の在り方



広谷 直樹 議員

選挙区 岩美郡
会派 自由民主党

問 ジオパークによる地域活性化推進のためには更なる認知度の向上を図り、国の支援体制の整備が急がれると思うがどうか。

答 国会議員のジオパーク議連と一体となり様々な支援策を働きかける。最近教科書に鳥取砂丘が取上げられ存在感が出てきた。更なる売り込みを図る。

問 高校入学者が2年連続で募集定員の2/3に満たない学校が複数校あるが、学級減の対象か。

答 (教育長) そういう状況になれば基本方針どおり3学級から2学級へ減の対象として検討していく。

①美保湾・弓ヶ浜の保全 ②境総合高について



安田 由毅 議員

選挙区 境港市
会派 自由民主党

問 ①美保湾・弓ヶ浜の保全活動には中海・宍道湖ラムサール条約登録のように、地域の誇りを形にするような旗印が必要では②コロナ禍において、改めて専門高校に光を当てるべきでは。

答 ①サイクリングロードを中心に白砂青松、美保湾を守る活動を県民と共に今後も進める②(教育長) コロナ禍の中で専門高校の重要性の高まりを認識している。設備整備、活動経費を県としてもしっかりと支援する。県民に対しての情報発信も行い、魅力度向上に努める。

①介護報酬②犯罪被害者 ③淀江埋蔵文化財



浜田 妙子 議員

選挙区 米子市
会派 会派民主

問 ①コロナ特例措置により高齢者負担が増えた。国に解決を②犯罪被害者支援の特に経済的支援の充実を③淀江産廃予定地前方後円墳は地下水調査結果が出る迄ストップし、専門家を交え今出来る事を見定めて欲しい。

答 ①的確に政府にも意見を申し上げたい②見舞金も含めたフォローアップや人権についても2月議会に向け検討したい③正直同感。地下水調査結果がどうなるか分からないのであれば一旦は保存の形も可能かと。専門家の意見も聞きよく相談したい。

コロナ、高校生就職、 南北線、米軍機、風力



市谷 知子 議員

選挙区 鳥取市
会派 無所属

問 ①コロナ対策⑦薬局に慰労金を①前年実績で介護デイサービス重度加算を⑨学生緊急給付金の再給付⑩事業所に再応援金⑪ジャパンディスプレイ国内回帰は全て県内雇用に⑫来春卒高校生の県職員採用②南北線中止③米軍機の騒音測定器設置④風力発電に市民参加の県ルールを。

答 ①⑦知事会で緊急提言①従来どおり出るよう適用緩和⑨12月再配分⑩商工団体の意見踏まえ必要な対応⑪しっかり働きかける⑫5名拡大②様々な意見に丁寧に対応③国に要請④必要ない。

動物愛護取組推進を図り 地域との連携強化を



濱辺 義孝 議員

選挙区 鳥取市
会派 公明党

問 動物愛護ボランティアの皆さんと意見交換を実施。保健所に収容されている犬猫の健康状態が心配等様々な意見があった。動物愛護の取組には、多くの人の支えが必要。地域毎に意見交換を実施して、情報共有し理解を深め連携強化を推進すべきと考えるがいかがか。

答 民間の皆さんと協働して実践を図ることが重要。今後とも連携強化を図り、意思の疎通を重ねて行く。県とボランティアの適切な役割分担のルールを明確化し実施していきたい。

一般質問

【答弁者説明】 答弁者は、記載のないものは知事(各部長の答弁も含む)。教育長、警察本部長、病院事業管理者は知事の部局ではないため、別に表記した。

①グランピング(※) ②少子化対策 ③IT人材育成



常田 賢二 議員

選挙区 鳥取市
会派 自由民主党

問 ①グランピング推進の可能性は②コロナ禍、出会いの機会の創出が必要では③鳥取県版Society5.0を推進する時代に、いかにしてIT人材を育成しようと考えているのか。

答 ①これからの観光の一つのツールになり得る。新年度予算に向けて考える②新型コロナを経て、出会いの場の必要性が若者の間で高まった。色々工夫して提供していけるよう関係者と知恵を絞っていく③情報産業協会等と連携し、IT人材確保の受け皿づくりを進めていく。

鳥取の未来型産業創生 柿試験地移転問題



山口 雅志 議員

選挙区 鳥取市
会派 自由民主党

問 ①宇宙産業等、鳥取の未来産業を担う部署の新設は②河原柿試験地の園芸試験場(北栄町)への移転についての考えは。

答 ①技術開発、新産業創生ビジョン、販路形成マーケティングなど多様な支援をしながら、鳥取県の中に新しい産業の核を作っていけるように「産業未来創造課」のような部署を新設して組織的に対応していく②柿農家の考えをしっかりと受け止め、納得いただけるよう意思疎通を図り、柿の生産を強く賑やかにする。

①デジタル化への環境整備 ②ICT教育環境



藤井 一博 議員

選挙区 東伯郡
会派 自由民主党

問 ①デジタル化に関わるインフラ整備として、県内各市町村の光ケーブルへの転換状況は②令和3年3月末には、小中学生に1人1台の学習用端末が準備されるが、Wi-Fi環境等の実態把握は。

答 ①14市町村で整備され、残り5市町も進みつつある。財源については全国知事会から政府に働きかけたい②(教育長)家庭のネット環境は8割から9割整備されている。各市町村において、ポケットWi-Fiの配布や公民館等の活用を進められている。

PCR検査の拡充 産廃計画地の県道用地



山川 智帆 議員

選挙区 米子市
会派 無所属

問 民間が行う安価なPCR検査について、県も検討すべきでは。

答 今は未定の段階。住民の思いに従って努める。県として、できることを別途考えていく。

問 淀江産廃計画地周辺の県道用地が必要以上に購入され、不要になった土地は安価に売却されたのはなぜか。

答 私の就任する前のこと。当時は、地籍混乱地では全筆買収し、残地は隣接地の所有者等に売却していた。民間事業者が購入したが、産廃を計画する前であり、関連性はない。

学校での定期研修で いじめ早期発見解決を



银杏 泰利 議員

選挙区 鳥取市
会派 公明党

問 ①鳥取県いじめ対応マニュアルを使い、学校内で定期的に研修会を行うこと。

②いじめ・不登校総合対策センターと学校とがダイレクトに結ばれる仕組みを構築すること。

答 (教育長) ①さらにさらに力を入れて、充実させて取り組んでいく。校内で研修が進む仕組みづくりを検討する。保護者に対する研修も、利用しやすい仕組みを考え、研修の充実、機会の充実など努める。

②市町村ともしっかりタッグを組んで取り組む。

天神川の100年確率の豪雨対策について



川部 洋 議員

選挙区 倉吉市
会派 自由民主党

問 天神川は伊勢湾台風並みの40年確率の豪雨に対して治水が進められ、ほぼ9割完了したが、100年確率以上の豪雨がいつ起きてもおかしくない近年の状況を考えれば、本来の計画である室戸台風並みの100年確率の豪雨に備えることが必要だと考えるがどうか？

答 現状の河川整備計画の次を議論しなければいけない。県もソフト対策、流域対策で協力するが、政府に十分働きかけ、国が河川整備を責任を持って前進するよう訴えかけていきたい。

※ グランピング: グラマラス(魅力的な)とキャンピングを掛けあわせた造語。テントの設営や食事の準備などの手間がかからず、自然体験ができる新しい形のキャンプ。

一般質問

議事録の全文は、県議会ホームページからご覧いただけます。

鳥取県議会

検索



※掲載に時間がかかる場合があります。

SDGsを見据えた資産活用と産業振興



野坂 道明 議員

選挙区 米子市
会派 自由民主党

問 ①長期間塩漬けの県有資産や未利用財産について県総務部で一元管理し更なる活用や売却の促進を図るべき②SDGsを踏まえHACCP(※)対応の観点から境港高度衛生管理型市場の設備改修を含む早急な改善策が必要③バイオマス発電燃料の県産木材チップの供給促進を図るべき。

答 ①民間の力も入れ売却や活用に向けて手法を強めたい②市場関係者の意見を聞きながら利用促進を図りたい③SDGsへの貢献をバイオマス発電向けの木材チップ活用でも進めたい。

環境大学におけるデジタル人材の育成



内田 隆嗣 議員

選挙区 米子市
会派 自由民主党

問 公立鳥取環境大学について、新学部や学科の増により、デジタル人材を育成する機関として、役割を果たせないか？

答 副専攻のような形で、ICT関連だとか、情報工学やデータサイエンスというものに学びを深めていけるような大学のカリキュラムにならないか、また、それに向けた教員配置等々も考えていけないか。そういう言わば現実的な解を今見いだそうとしているところ。

中山間地域の課題解決に向けた県の役割



由田 隆 議員

選挙区 倉吉市
会派 無所属

問 鳥取県の人口は昭和63年の61万6千人を境に人口減少が続き県も山間集落实態調査等実施し、中山間地域振興行動指針で各種の政策を実施しているが実態調査、行動指針とも実態に即していない。見直しを求める。

答 この山間集落实態調査は平成2年西尾県政時代に始まり、対象は111集落で中山間地域の全体像となっていない。行動指針の見直しも、今日のご提案を踏まえダイナミックに中山間地域にアプローチが出来るように考えたい。

地域を守る営農支援 県有施設活用のあり方



福間 裕隆 議員

選挙区 西伯郡
会派 会派民主

問 営農組織の個々の実態を踏まえ、適切な時期に、それに沿った支援を。

答 集落営農組織の厳しい現状は十分認識。現場の意見を大切にし、所要の見直しをする。

問 運営手法の選択に限らずそもそもの設置目的、果たしている役割、維持向上の方策等個々の実情を踏まえた判断が必要。

答 管理運営、コンセッション等は経営手法の問題。重要なのは施設の設置目的に沿った効果の発現。趣旨を貫徹して、議論もその基本を外さないのが筋道だ。

①米子の交差点改良 ②ひとり親家庭支援



西村 弥子 議員

選挙区 米子市
会派 会派民主

問 ①義方小東側交差点の歩道を狭めて車道を拡幅し、スクールゾーンに交通を促す県道工事は適切なのか。地元で説明し再検討してほしい。また歩行者の安全を考え小学校前の道に右折禁止の交通規制をかけてはどうか②コロナで旅行にも行けないひとり親等困窮家庭への支援は。

答 ①時間を頂いて地元とさらに調整する。執行自体のスタートを止め、意思疎通を図り、より良い形になればと思う②家族まるごと相談窓口設置など、機動的に寄り添う施策を展開したい。

企業誘致、除雪対策、ひきこもり対策



中島 規夫 議員

選挙区 鳥取市
会派 自由民主党

問 ①企業誘致をどう進めるか②冬に向けた除雪対策は③ひきこもりの現状把握と対策は。

答 ①首都圏、関西圏や海外等大都市ではないところでのビジネスチャンスや地元企業の拡張など注力・対応したい②市内の除雪出動基準を積雪5cmに下げたほか、高規格道路と並行道路との迂回路確保と連動した除雪について国・市町村と連携する③ひきこもり生活支援センターの活用、市町村の取組支援やサポート強化など、関係者と調整・意見交換して進めたい。

※ HACCP(ハサップ)：国際的に推奨されている食品の安全性を確保するための衛生管理手法。